平成30年度事業報告

特定非営利活動法人はぁもにぃ永平寺

1、事業の内容

〇利用者

平成27年1月の本事業所開所以降、4年が経過した。本年度、生活介護利用者は、新たに1名が加わり6名（内、医療的ケアを必要とする方2名）と増加した。また、放課後等デイサービス利用者は、卒業に伴い1名減少したが、年度途中に新たに1名加わり、9名（内、医療的ケアを必要とする方5名）と昨年度同数だった。医療的ケアを必要とする方は、合計7名と利用者全体の5割近くを占めるようになってきた。

〇定員

今後の生活介護利用者増を見越し、7月以降の定員を「生活介護と放課後等デイサービス併せて5名」から「生活介護5名、放課後等デイサービス5名」に見直した。

〇スタッフ

利用者や医療的ケア児者の増加に伴い、常勤スタッフを1名増加し計3名とした。また、医療的ケアに対応できる人員確保のため、看護スタッフの増員を図った。スタッフ増により、収入に対する人件費の割合は増加したが、常勤スタッフ同士相談し合ったり、役割分担しながら日々の業務を遂行しやすくなった。

〇理事会

任期満了に伴い理事長が交代（代表理事と改名）した。また、新規理事として、地元在住の方を非常勤事務職を兼ね1名追加した。円滑な事務作業の遂行に加え、事業所移転に伴う地元との交渉等、地元との関係の構築を図った。

＜事業運営の成果と課題＞

(1) 提供サービスに関して

・新規利用者受入に際して、保護者、相談支援員、学校との情報共有を丁寧に行った。次年度は、情報共有のために個別の支援計画を活用したい。

・スタッフ配置の難しさから、入浴ニーズに応えられなかったが、次年度は、生活介護の活動の中で、関係機関との調整で地域の施設を利用した入浴を行えるようにスタッフ配置を工夫したい。

(2) スタッフに関して

・げんきの家主催実践発表会で、看護師が実践報告を行った。次年度も、所内外での実践報告の機会を設けたい。

・常勤スタッフが非常勤スタッフと協力し行事を企画・運営した。スタッフ同士の連帯感が深まり、積極的に活動を考えるきっかけになった。

(3) 地域との交流

・これまで特別支援学校の地区別学習会と連携して行っていた納涼祭は、「はぁもにぃ祭」と改め、事業所単独で地域のボランティアと連携して行うことになった。また、公民館サロンに通う人を中心に祭に招待した。

・行事では、ボランティアとして福井県立大学教員、福井大学医学部看護科学生の参加があった。また、福井大学学生の卒論に伴う、継続的な訪問があった。

(4) その他

・利用者が増加し活動スペースが手狭になってきたが、公民館利用などスタッフによる工夫により大過なく過ごせた。利用者の安全という観点からも、生活スペースの拡充が望まれる。

・前年度（平成30年3月）の24時間テレビ福祉車両贈呈により新車1台が増え、今年度は、利用者の送迎、外出等に大いに安心して活用できた。

・事業所運営は気候に左右されることがある。猛暑により水分補給を促したり、暖冬により スムーズな送迎ができたりした。

＜経営の成果と課題＞

(1) 10年間の長期事業計画と関係機関への広報

・児童発達支援事業実施に向け 、新世紀（訪問看護ステーション）と連携しパンフレットを作成し就学前の利用者開拓の準備を行った。（次年度は希望に対応できるように体制を整えることが必要である。）

・町立在宅医療診療所に、本事業所利用者の健康観察と巡回指導の依頼を行った。（次年度は具体的な取組に繋げたい。）

(2) 令和2年度4月事業所新築移転に向けた取組

・移転先土地の選定と購入を決定した。

・賛助会員は前年度より微増した。（事業所新築に伴う寄付金および賛助会員募集を継続して行う。）

・新事業所構想に関するスタッフと理事との意見交換の機会を設け、スタッフの意見を設計図作成に反映させた。設計図は令和元年6月までには完成予定である。

・福井信用金庫と具体的な融資計画を策定した。また、国庫補助金を受け取れない場合には、WAMネットとの協調融資を検討予定である。

(3) 関係機関との連携

・今年度は、外部評価委員会（行政・福祉関係者・教育関係者・医療関係者・地区区長・地元民生委員等）の設置はできなかった。客観的な評価を受けながら、地域に根ざした事業所として存続していくために、次年度中に委員会への参加を関係者に依頼し、令和2年度からの実施を目指したい。